

〔九州地区理事〕

当選	瓜生 道也	1,426票	
当選	門脇俊一郎	1,411票	
当選	小林 哲夫	1,368票	
次点	なし		
その他			
	高橋 勲	……………	6票
	古川 武彦	……………	3票
	能登 正之, 山形 俊男	……………	各2票
	10名	……………	各1票

〔沖縄地区理事〕

当選	石島 英	1,430票
次点	なし	
その他		

高谷 悟	……………	4票
3名	……………	各1票

2. 監 事

当選	多田 一正	1,462票	
当選	関口 理郎	1,456票	
次点	なし		
その他			
	吉野 正敏	……………	2票
	21名	……………	各1票

平成2年7月6日

日本気象学会選挙管理委員会
上記の開票結果に間違いのないことを認めます。
開票立会人 岩渕 敏明



朝倉 正編著
産業と気象のABC

—ビジネスに生かす気象情報—
成山堂書店, 1990年
A5版, 240ページ, 定価2,000円

気象学と社会とのかわりかたの点で、気象学が医学と類似していることはこれまでもよく指摘されてきた。基礎学問と観測、診断、予報などについては気象学の研究も多く行われている。どういうわけか医学での臨床にあたる応用気象の研究は、日本の気象界では、必ずしも十分であるとはいえない。このような現状をかえりみると、気象情報の利用に関する幅広い分野を対象としている本書を歓迎したい。目次をあげると次のとおりである。

- 第1章 産業と気象
- 第2章 ウェザーマーチャンダイジング
- 第3章 電力と気象
- 第4章 家電と気象
- 第5章 農作物と気象
- 第6章 産業と異常気象
- 第7章 景気と気象

第8章 ウェザルーティング

第9章 航空と気象

本書は、6人の専門家による共同執筆のためか、全体としてのまとまりがない感じがする。しかし、各章が分担執筆者の思うままに書かれているようだ。その業界の人でないとは知ることができないことも盛り込まれている。たとえば、「ルームエアコンはかなりの高額な買い物となるためと、しかも、男性が使用の中心となるため、週末に、一家の主人が直接に購買行動に出て購入されるケースが多い。このため、ウィークデーは販売への下見はあっても実売は、土、日、祭日が多くなる。従って、ウィークデーは気象条件に恵まれなくても、週末に天気上好転することが必要である。」といった見方など、経験からにじみでた記述に思わずなるほどと納得するところが少なくない。

すぐに役に立つようなマニュアルや教科書にはなっていないとしても、この本の副題に「ビジネスに生かす気象情報」とあるように、商売のヒントになることはたくさんありそうだ。また気象情報を提供している側の人にとっても、どのように利用されているかを知ろうえでは興味のある本といえる。

(気象庁長期予報課・青木孝)